

広報ふたば

迎春



【表紙写真】無病息災を願って・・・縁起物の伝統芸能（三字芸能保存会）

帰還に向けた環境整備を加速

双葉町長 伊澤 史朗



R常磐線双葉駅周辺を視察され、「復興・創生期間後も福島復興が成し遂げられるまで国が前面に出て、全力を尽くす」という強い決意を述べられ、私としても今後の町の復興・再生に強く背中を押していただいたと感じたところです。

町の新たな「働く拠点」として位置づけている中野地区復興産業拠点は、平成30年度内における一部供用開始に向け整備を進めてきたとともに、町内での事業再開に向けた立地支援と企業誘致にも積極的に取り組み、事業者との立地協定を順次締結しております。さらに立地を希望している約20社の企業との協定締結に向けて協議を進めております。

また、町への人の流れを創出するため、各拠点を有機的に結び付ける常磐自動車道復興インターチェンジの整備、インターチェンジから拠点区域や中野地区へのアクセス道路となる復興シンボル軸（県道井手長塚線、長塚請戸浪江線）の整備については、昨年の11月に起工式が行われ、平成32年（2020年）の暫定供用、平成34年（2022年）の全線開通を目指してまいります。

平成32年（2020年）春にはJR常磐線も全線開通予定であり、それに合わせて昨年よりJR双葉駅の橋上化や東西自由通路の供用開始がで

きるよう整備を進めております。

また、すでに特定復興再生拠点区域内90ヘクタールの除染・建物解体を実施しておりますが、本年からは90ヘクタール以外の特定復興再生拠点区域全域での除染、建物解体が環境省により進められていきます。

「住む拠点」として整備する駅西地区については、住民説明会を経て、用地取得に取り組み、平成34年（2022年）の居住開始を目指して公営住宅や賃貸住宅等の建設、分譲地の整備など帰還環境整備を進めてまいりますので、町民の皆さまの一層のご理解とご協力をお願いいたします。

昨年開催した町政懇談会でも双葉町への帰還に関する考え方をお示しましたが、今後、双葉町への帰還に向けて（仮称）帰町準備室や検証委員会の設置などの取り組みを進め、避難指示解除と町への帰還に向けて各種事業を着実に進めてまいります。

さらに、町民の皆さまの生活を支える各種支援策や原子力損害賠償についても今後とも粘り強く国に要望していく所存です。

町立学校再開から6年目を迎えます。町の将来を担う次世代の育成のため、「双葉町教育ビジョン」に基づき、一人ひとりを大切にすると数教育、幼稚園、小・中学校連携による柔軟な教育活動、ICT関連機

器を生かした教育や英語教育、双葉町の伝統文化の学習など特色ある教育を推進していきたいと考えております。

さらに、生涯学習への支援についても継続して行い、町民の方々の絆の維持を図ってまいります。

本年も初心を忘れず、必ず双葉町を復興させるという強い信念を持ち、議会と連携しながら職員とともに町の復旧・復興、並びに町民の皆さまの生活支援や絆の維持に関する事業に精力的に取り組み、帰還に向けた環境整備を加速してまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

寒さの厳しき折、町民の皆さまには健康に留意され、本年が良き年となりますようご祈念申し上げ年頭の挨拶といたします。

平成31年の輝かしい新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げますとともに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故による全町避難から、8度目の新年を迎えました。本年は平成最後の年となり、5月からは新しい元号のスタートとなる節目の年です。新たな時代の幕開けとなりますので、より一層気を引き締めながら町政運営に努めてまいります。

昨年は双葉町の復興の具現化に向かって大きく動き出した1年でありました。また、昨年11月に安倍晋三内閣総理大臣が中野地区復興産業拠点と、特定復興再生拠点区域内のJ



教育長 館下 明夫



副町長 金田 勇

未来

双葉町議会議長 佐々木 清一



平成31年、5月には新しい元号となる新春を迎え、議會を代表して謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故により避難を強いられ、早や7年9カ月が経過しましたが、避難先で8度目の新年を迎えることになりました。

年の初めではありますが、まず、大変辛く厳しい不自由な避難生活の中で、古里双葉町に帰ることが叶わず亡くなられた皆さま、ご家族の皆さまに対し、衷心よりお悔みを申し

上げますとともに、避難生活を送られています全ての町民の皆さまにお見舞いを申し上げます。

本年4月30日に天皇陛下が譲位され、新たな元号と共に皇太子殿下が即位されます。双葉町も心新たに、復興へ一歩一歩踏み出しております。

昨年は、中野地区復興産業拠点への企業誘致、JR双葉駅の橋上化、町を東西に横断する復興シンボル軸、さらには駅を中心とした生活拠点整備など、復興に向けた様々な取り組み、工事が始まりました。

議會といたしましても、町としっかりと議論を行いながら町内全域の復旧・復興に、しっかりと取り組んでまいります。

県で実施している事業の海岸堤防の工事も進んでおり、さらに復興祈念公園の一部とアーカイブ拠点施設についても、平成32年度に向け整備が進められていくこととなります。

住宅について昨年2月には、復興公営住宅勿来酒井地区団地が完成

し、新たな生活の場へと移られた方もおられます。町民の絆維持の継続に必要な住宅の完成を、大変嬉しく思っています。

今後も続く避難生活の中で、医療費の一部負担金等の減免措置や高速道路の無料措置、さらには、自然災害により住宅に大きな被害を受けた方に支給されます被災者生活再建支援制度についても継続していただくよう、今後も町民支援のために、積極的かつ継続的に要望をしまいたいと考えています。

議會といたしましては、町民の皆さまの付託に応えられるよう議員一人丸となって頑張つてまいりますので、一層のご支援御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今後も町の復興や町民支援に全力を傾注し、議會としての責務を全うすることをお誓い申し上げますとともに、町民の皆さまお一人おひとりが健康で希望を持ち、日々過ごされますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

双葉町議會

議長
副議長
議員

〃 〃 〃 〃 〃

佐々木 清一
岩本 久人
尾形 彰宏
石田 翼
羽山 孝子
高萩 博文
菅野 博紀
清川 泰弘



どんぐり北広島ソフトテニスクラブ所属

はなかい みさき
半谷 美咲さん(渋谷)

私の新年の目標は2つあります。1つ目はソフトテニス界で国内ナンバー1を決める皇后杯で優勝することです。過去にあと一歩というところまでいきな



がら優勝を逃した瞬間の悔しさは忘れません。日頃から本気で指導してくださる監督、コーチや応援してくださるたくさんの方々のためにも、そして本当に苦しい時に支えてくれた家族の為に絶対に関わります。

2つ目は、人としての成長です。所属チームでは最年長になります。後輩を育てながら自分自身も結果を残し続けること。また、選手としても女性としても魅力があふれ、自然と周囲に人が集まってくるような人になりたいです。道は自ら切り開くことができます。夢が人生をつくるので、今年も夢に向かって突き進みます。

平成三十一年

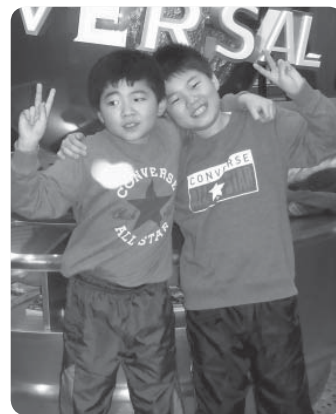
明けまして

おめでとうございます。

愛媛県松山市立湯山小学校5年

さわがみ わたる
澤上 航くん(羽鳥)

ぼくは、3才の時に東日本大震災にあいました。その後、お母さんの生まれた愛媛県松山市



(写真左が航くん、右が翔くん)

愛媛県松山市立湯山小学校5年

さわがみ かける
澤上 翔くん(羽鳥)

ぼくは、双子の航さんといっしょで、3才の時に、東日本大



(写真左が航くん、右が翔くん)

に行きました。愛媛での生活は楽しいけれどたまに福島を思い出して帰りたくなります。地震の前は、家族みんなでくらししていました。今は愛媛と福島にバラバラになっています。だから、福島にいる家族のことを思うと会いたくなります。

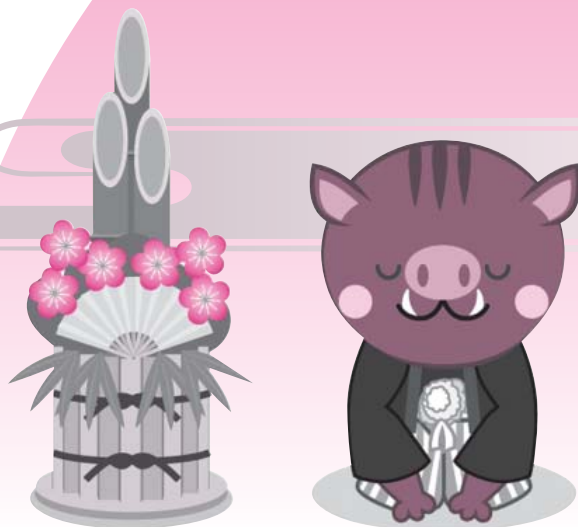
今は、愛媛でキャンプに行ったり友達と遊ぶのが楽しみです。6年生になったら今までより勉強をがんばりたいです。将来の夢は、災害がおきた時に役に立つロボットを作りたいです。

震災がおきました。その後、お母さんの生まれた愛媛県松山市にひなんしました。ぼくの記憶では、小さなブランコやかいじゅうのおもちゃがありました。そのまま置いて来たので、そのことを思うと悲しいです。愛媛に来てから、いろんな人におもちゃをゆずってもらってうれしくて、温かい気持ちになりました。

今は、つりをしたり、友達と遊んだりすることが楽しいです。ぼくは、15才になったら、双葉町に行ってみみたいです。

今年は亥年

今年の干支は「亥」。
亥年生まれの方々に、
今年の抱負やふるさとへの
想いなどを寄せていただき
ました。



福田 一治さん（下長塚）

東日本大震災から間もなく8年、避難を余儀なくされてから長い月日が過ぎようとしています。二本松市といわき市を行ったり来たりであります。避難生活にも慣れ落ち着きを取り戻



石井 友菜さん（長塚二）

私の新年の抱負は、「自分で考え、自分で行動すること」です。私は今まで、自分で考えもせず、人を頼ってばかりでした。

そのような自分を少しでも変えたいと思っています。このままだと自立ができなくなってしまう。家族から普段から言われているので、自分でも将来に向けて夢をもったり、自分から進んで行動できる力を身に付けたいと思いました。私は、4月から中学生になります。私の進学したいと考えている学校の建学の精神は、「自立」、「協働」、「創造」となっています。中学生になったら、様々な部分で「自立」ができるように、新しいことにも積極的にチャレンジして、努力していきたいと思っています。

しつつあります。

さて今年亥年であります。イノシシと云えば、短い足と寸胴な体ですが、それに見合わず、優れた身体能力を持っています。今年も猪突猛進、この勢いで町への協力や震災前から経営している(株)福田工業で活躍すると共に、健康第一を考えて頑張っています。

最後になりますが、いわき市勿来地区の窪田店・錦店のほかに、昨年は復興公営住宅内商業施設「だるまる」内にコインランドリーの新店舗を開店しました。清潔第一を心がけ、3店舗とも地域の皆さまに愛されたくさんのご利用をいただけるようにしたいと思います。

内閣総理大臣 双葉町内を視察

11月24日、安倍晋三内閣総理大臣、渡辺博道復興大臣など国の関係者や、鈴木正晃県副知事が双葉町内を訪問し、東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興状況を視察しました。

JR双葉駅周辺を歩いて視察し、伊澤史朗町長から特定復興再生拠点区域の概要を中心に、JR双葉駅の再開や現在の町の様子などを説明したほか、双葉町の復興は他町とは大きくステージが違ふことや、復興・創生期間終了後も、町の復興に向け、生活再建支援を含め支援をお願いしました。中野地区復興産業拠点では、立地協定を締結した事業者から事業の説明を行いました。

視察を終えた安倍首相は「復興・創生期間後も福島復興が成し遂げられるまで国が前面に出て全力を尽くす」と強い意思を述べられました。



▲ 特定復興再生拠点区域（JR双葉駅周辺）



▲ 中野地区復興産業拠点

平成31年度予算の要求に向けた国への要望活動を行いました

12月7日、伊澤史朗町長と岩本久人町議会副議長は、復興庁の渡辺博道大臣をはじめ経済産業省、環境省などの関係省庁に対して要望活動を行いました。

主な要望項目は、被害実態に即した賠償の実施と生活再建支援、避難者に対する高速道路無料措置の延長、医療費一部負担金等の減免の継続、特定復興再生拠点区域の段階的かつ確実な拡大と帰還困難区域全域の帰還環境整備・避難指示解除に向けた取り組みの継続、住宅用地に対する固定資産税の特例の適用などで、町や町民一人ひとりの復興に向けた重点課題について強く要望しました。



県道 井手長塚線 県道 長塚請戸浪江線

復興シンボル軸 起工式

11月27日、復興シンボル軸の起工式が行われ、伊澤史朗町長、佐々木清一町議会議長が出席しました。

復興シンボル軸は2020年春に供用開始予定の（仮称）双葉インターチェンジからJR双葉駅周辺の市街地部を經由し、県道広野小高線までの東西を結ぶ全長7.1kmの道路です。

JR双葉駅周辺の特定復興再生拠点区域における「新たな生活の場」の確保や「既成市街地の再生」の推進、中野地区復興産業拠点の「新たな産業・雇用の場」の創出、県復興祈念公園の「追悼と鎮魂、後世への伝承、強い意志の発信」の場の創出など、魅力ある町の再興を支援する基幹的な道路となります。

起工式では、畠利行県副知事や伊澤町長の祝辞のあと、関係者により起工スイッチが押され、工事の着工が宣言されました。



▲記念品の交換

11月10日から12日の3日間、双葉町から社会教育委員等7名が友好町である京都府京丹波町を訪問し、京丹波町社会教育委員との交流事業を実施いたしました。

1日目には、京都市内の東本願寺を見学しました。東本願寺には双葉町の正福寺から移築された灯籠があり、遠く離れた地でふるさとを感じることもできました。

2日目には、「京丹波町文化祭2018」を見学しました。文化交流の一環として双葉町芸術文化団体連絡協議会会員の芸術作品特別展のブースが設けられ、作品14点が展示されていました。また、ステージの部では丹波音頭愛好会がふたば音頭を披露し、京丹波町民の皆様は双葉町を身近に感じてもらえるような内容となっていました。そのほかにも、グリーンランドみずほホッケーグラウンド、道の駅京丹波味夢の里、京都トレニングセンター等を見学し、京丹波町の魅力にふれることができました。

双葉町社会教育委員が 友好町京丹波町を訪問



した。京丹波町では1988年に開催された京都国体の際にホッケー会場になったことで、子供から大人までホッケー競技が盛んに行われているとのことでした。

最終日には、京丹波町役場にて両町社会教育委員による意見交換会を行い、社会教育委員の活動や、今後の交流事業等について活発な意見が交わされました。

今回の訪問で、京丹波町の双葉町に対する温かい想いに触れることができ、友好町としての絆をより一層深めることができました。

第4回双葉町議会定例会

12月11日招集の平成30年第4回双葉町議会定例会で伊澤史朗町長が行政報告を行いました。その概要についてお知らせします。



行政報告



席者を代表して94歳になられた佐藤正弘さん（郡山）へ記念品を贈呈いたしました。また、13組の金婚夫婦のうち、出席された9組のご夫妻に、福島民報社から表彰状と記念品が贈られました。式典後は、昼食交流会が行われ、久々の再会を喜び合っていました。また、お笑い芸人のステージが行われ、出席された皆さんは楽しいひとときを過ごされていました。

9月定例会以降の

行政報告

―敬老会―

9月15日、震災後3回目となる「双葉町敬老会」をいわき市植田町のやまたまやで開催し、県内外から多数の方々に参加いただきました。式典では、284名の出



―市町村対抗 野球・

ソフトボール大会―

9月16日、「第12回市町村対抗福島県軟式野球大会」が須賀川市牡丹台球場において開催され、10月13日には「第5回市町村対抗福島県ソフトボール大会」が相馬光陽ソフトボール場で開催されました。選手の皆さんの復興への願いが込められた元気いっぱいプレーに勇気づけられたところです。



―立地協定締結式―

9月25日、「中野地区復興産業拠点への立地協定締結式」をいわき事務所で行いました。2件目と

なる今回は、震災前まで町内で事業を行っていた双葉住コン株式会社と、大林道路株式会社による共同企業体との協定となります。引き続き中野地区復興産業拠点への立地協定の締結に向け取り組んでまいります。



―除染・解体工事等に係る

説明会―

9月30日、双葉町と環境省との合同による「双葉町特定復興再生拠点区域内の除染・解体工事等に係る説明会」を郡山市といわき市で開催しました。両会場合わせて123名の方々に参加いただきました。

した。今後とも、拠点区域内の除染、インフラ整備など、国、県と連携し進めてまいります。

―ふたばスポーツフェスティバル2018―

10月6日、Jヴィレッジにおいて震災後2回目となる町民体育祭に代わるスポーツイベント「ふたばスポーツフェスティバル2018」と、昨年度に引き続き公益財団法人日本オリンピック委員会主催の「オリンピックデー・フェスタinふたば」を合同で開催しました。オリンピックメダリストを含む7名のオリンピックに参加していただき、5チームに分かれて、手つなぎ鬼や小玉回し、玉入れなどの競技で汗を流し順位を競いました。参加者の皆さんは、オリンピックと触れ合いながらスポーツを通じて心身のリフレッシュを図り、参加者同士の交流を深めていました。このスポーツイベント開催にあたり、ご尽力いただいた関係者の皆さんに改めて感謝申し上げます。



―町政懇談会―

10月11日から11月17日にかけて、福島県内外11会場で町政懇談会を開催し、約300名の方々にご出席いただきました。今回の町政懇談会では、まず私から、町内の復興の取り組み状況について報告した後、教育長より双葉町の教育行政について、担当課長より避難指示解除に関する考え方（素案）、双葉町特定復興再生拠点区域内の除染・建物解体、平成30年度住民意向調査について説明を行いました。懇談会では、町民の皆さんから特定復興再生拠点や建物解体、原子力損害賠償など町政全般について、数多くのご意見、ご

要望、ご質問等をいただきました。今回の懇談会で出されたご意見等を、今後の町政運営に反映させるべく検討してまいります。



―作品展覧会―

10月11日、12日の両日、郡山市ビッグアイで、双葉町芸術文化団体連絡協議会主催の「第31回双葉町総合美術展」及び町主催の「第5回双葉町民作品展覧会」が開催されました。町民の皆さんの力作274点が展示され、また今回は友好町である京都府京丹波町の芸術作品ブースを設けました。多くの町民の皆さんが会場を訪れ、素晴らしい芸術作品を鑑賞すると

にもお互いの再会を喜び合っていました。

また、10月27日、28日の両日、勿来地区文化協会のご支援により、勿来市民体育館で開催された勿来地区総合文化展会場において、「第5回双葉町民作品展覧会」を開催しました。町立小・中学校の児童生徒をはじめ、いわき市、加須市などから町民の皆さんの作品が出品され、勿来地区の皆さんとの文化交流を図りました。



―梅檀祭―

10月27日、町立幼稚園・小・中学校による「梅檀祭」が、仮設校舎体育館において開催されました。子どもたちのせんだん太鼓の

演奏からはじまり、総合的な学習で取り組んだじゅんがら念仏踊りの発表や、子どもたちが一生懸命練習をかさねた創作劇、合唱などが発表され、参観された皆さんに大きな感動を与えました。



―表彰式―

11月3日、いわき事務所において、「平成30年度表彰式」を挙行いたしました。式では、1名と1団体の方に善行表彰を、23名と6団体に感謝状をお贈りいたしました。町の復興と避難者支援、町民の健康管理や絆の維持のためにご尽力いただいた方々に感謝の意を申し上げますとともに、双葉町の復興に

向けて、今後とも一層のご尽力とお力添えをお願い申し上げます。



―友好町・京丹波町―

11月6日から8日まで、双葉町の友好町である京丹波町から太田昇町長と3名の職員が双葉町を訪問されました。

初日は町立学校を視察された後、いわき事務所で意見交換を行いました。2日目は特別養護老人ホーム「せんだん」や復興公営住宅勿来酒井団地を視察されました。また、Jヴィレッジに立ち寄った後、双葉町内に入り被災の現状と復興の状況を見ていただきました。京丹波町とは今後とも両町が

息の長い交流を続けていくことを約束いたしました。



―消防団検閲式―

11月10日、「平成30年双葉町消防団検閲式」を町立学校仮設校舎体育館において挙行いたしました。全国各地から、石井消防団長をはじめ27名の消防団員が参加し、根本訓練分団長の総指揮のもと、閲団と通常点検が行われました。今年は地震や台風などによる自然災害が多発しており、消防団は災害対応の第一線であり、地域消防の中核であることを、あらためて認識したところです。

―友好町・京丹波町交流事業―

11月10日から12日の3日間、京丹波町社会教育委員と双葉町社会教育委員の交流事業を京丹波町において実施いたしました。双葉町から7名が参加し、それぞれの活動状況報告のほか、今後の交流事業などについての意見交換が行われました。また、訪問した3日間にわたり「京丹波町文化祭2018」が開催されており、双葉町民の芸術作品特別展のブースが設けられ、作品14点が展示されました。



「ふくしま駅伝」

11月18日、「第30回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会」が開催されました。選手の皆さんは、大会を前に2回にわたる合宿を行い、チームワークを高め、当日は心一つに大会に臨みました。体調不良の選手が多い中、棄権することなく最後まで完走しました。選手の頑張りは、町民の皆さんに、元気と感動を与えていただいたものと思います。監督・コーチ・選手、そしてご支援いただきました関係者の皆さんに改めて感謝申し上げます。



「内閣総理大臣町内視察」

11月24日、安倍晋三内閣総理大臣が双葉町の中野地区復興産業拠点と双葉駅前の特定復興再生拠点を視察され、私から双葉町の復興の現状と課題について説明するとともに、国の対応を強く求めました。



視察後、安倍首相からは「復興・創生期間後も福島復興が成し遂げられるまで国が前面に出て、全力を尽くす」との力強い決意を述べられ、町としても、今後の復興・再生に意を強くしたところです。

「要望活動」

さらに、12月7日には平成31年度国の予算案決定に向けて、町民の皆さんの生活再建策の充実と町の復興・再生の加速化、さらに復興財源と国の支援体制の長期的な確保などの重点課題について、復興庁をはじめとする関係省庁に対し要望活動を行いました。



「復興シンボル軸起工式」

11月27日、復興シンボル軸として位置付けられている、県道井手長塚線、県道長塚請戸浪江線の起工式が双葉町大字中野地内で行わ

れました。

復興シンボル軸は（仮称）双葉インターチェンジから県道広野小高線までの全長7.1kmを整備するもので、町への人の流れを強化するとともに、各拠点を有機的に結び付ける町の復興に重要な役割を果たす道路となるものです。平成32年（2020年）の暫定供用、平成34年（2022年）の全線完成を目指し整備が進められます。



～教育長メッセージ～

2019年 夢と希望のある「学び」へ

明けましておめでとうございます。幼児、児童、生徒の皆さん、そして保護者の皆さまや町民の皆さまにおかれましては、ご家族で穏やかなお正月をお迎えしていることと推察申し上げます。

さて、避難先においてのお正月も8回目になりますが、ふるさとを思いつつも現在の生活のさらなる充実に向けて2019年を歩もうと多くの抱負を抱いていることと思います。教育委員会としまして、子どもたちが安全で安心して、そして楽しく学校生活が送れるよう学校教育の充実に努めてまいりたいと思います。また、生涯学習においても各自治会や婦人学級、さらには芸術文化・伝統芸能保存団体において熱心に活動されている皆さまにとって、夢と希望のある活動が生涯の「学び」となって実現できますよう物心両面に渡りサポートしてまいりますので本年もよろしくお願い申し上げます。

双葉郡教育復興ビジョン第5回ふるさと創造学サミット

12月8日(土) ビッグパレットふくしま(郡山市)において開催されました。双葉町立学校からも、小学3年生から中学2年生までの子どもたちが参加しました。双葉郡内の仲間とポスターセッションにて交流することができました。初めての取り組みであった『バーチャルふるさと遠足』や『じゃんがら念仏踊り』について発表することができました。町が望む「学び続ける子ども」「生涯を通じて学び続ける町民」の姿が少しずつ実践できていると思います。他の町村のブースにおいても、自由で素直な感性のもと、分かりやすく表現する活動ができていました。

福島県内外において学校生活を送っている皆さんへ

「いじめ問題への対策」についてメッセージを送ります。

いじめは絶対に許されない行為です。もし、いじめ問題で悩んでいる場合は、一人で悩んでいないで、すぐに学校の先生や家族に相談しましょう。勇気を持って周りに伝えてください。双葉町教育委員会でも皆さんが強く、たくましく将来に向けて前進できるようサポートしていきたいと考えています。

そして保護者の皆さま、早期発見・早期対応がよい解決につながります。お子さんがいじめを受けている兆候をつかんだ時は、早いタイミングで学校、地元教育委員会へ相談することが大切です。もし、避難先で誰も手を差し伸べてくれず困った時は双葉町教育委員会にご連絡ください。大切なお子さんの助けになるよう全力で取り組んでまいります。

また、下記のように福島県では教育やいじめに関する相談窓口を設けております。悩んでいることや困っていることがありましたら、一人で悩まずぜひご相談してください。

- ふくしま 24時間子どもSOS (子どものための24時間電話相談です)

☎フリーダイヤル 0120-916-024

- ダイヤルSOS (いじめ問題や不登校、体罰などの教育相談電話です)

☎フリーダイヤル 0120-453-141

福島県教育センター (月～金 10:00～17:00)

双葉町教育委員会 教育総務課 TEL: 0246-84-5210 FAX: 0246-84-5248
メール: kyouiku@town.futaba.fukushima.jp

双葉町教育長 館下 明夫

バーチャルふるさと遠足 ～ 町立学校 ～

11月26日、映像で双葉町内を遠足する「バーチャルふるさと遠足」を町立学校仮設校舎体育館で実施しました。この遠足は双葉町の今の風景や復興について児童たちに学んでもらおうと、NTT docomo、凸版印刷(株)、東京大学の協力で行われ、町立学校の4・5・6年生11人が参加しました。

約80km離れた双葉町の様子をリアルタイムに映し出す70インチのモニター3枚に最初に映し出されたのは、双葉ふれあい広場の様子。ドローンの映像に切り替わり町内の紅葉している山々や住宅地の様子が映し出されると、児童たちからは歓声があがりました。

次に、町内の除染作業に携わっている方々から、道路の除染の仕方や建物の除染の仕方を教わり、メモをとりながら真剣に話を聞いていました。

町内の知っている場所はありますか、という問いかけに対して「双葉ばら園」「マリーンハウスふたば」「清戸迫」と答えていた児童たち。児童たちからは町内にいる復興に携わる方々に対して「マリーンハウスはまた使えるようになりますか」「双葉駅は今どうなっていますか」「除染作業をするときのマスクはどんなマスクですか」など、多くの質問が出ました。

遠足を終えた児童からは「思っていたより家がたくさんあってびっくりした」「自分のふるさとだと胸を張って言いたい」「除染をする人たちが安全に作業できるといい」という声が聞かれ、多くのことを学んだ様子でした。



双葉ふれあいクラブからのお知らせ

平成30年度 双葉町民ボウリング大会

- 日 程… 平成31年2月2日(土)
受 付 開 始：12時45分～
ゲームスタート：13時30分～
- 場 所… 鏡石空港ボウル
鏡石町鏡沼216
☎0248-62-4142
- 参 加 費… 500円
- 対 象 者… 小学生以上の方
- 競技方法… 1人3ゲーム、ハンディキャップ制

- 表 彰… 1～3位
参加者全員に賞品があります。
- 申込締切… 平成31年1月25日(金)
電話かFAXにてお申し込みください。
- そ の 他… 保険については、双葉ふれあいクラブで加入しているイベント共済が適用されますが、それ以上の補償はありませんのでご了承ください。

初心者の方もお気軽にご参加ください!

ご成人おめでとうございます

成人を迎えて

成人式実行委員長 鈴木 貴紀（鴻草）

未曾有の大震災からまもなく8年が経とうとしています。今日では、メディアによる震災関連の報道を目にする機会が減り、被災地の現状を把握する術も少なくなりました。今なお帰郷することができず、避難生活を強いられている私たちですが、こうして無事成人を迎えることができました。

この喜びを友と分かち合いながら大人になることの自覚と責任をもち、本当の意味での大人になれるように努めていく所存です。

成人となった私たちには、今なお復興出来ていない現状だけでなく唯一無二の経験をしたからこそ得られた教訓を後世に伝える義務があると強く感じます。

そしてなにより、成人を迎えることができたのは、偏に皆さまのご支援の賜物と心より、深く感謝申し上げます。

まだまだ未熟な私たちではありますが、日々努力してまいりますので、引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



平成31年 成人者名簿 (五十音順)

双葉町成人式

日 時：平成31年1月3日（木）

受 付 11時30分～

記念撮影 12時50分～

式 典 13時15分～

場 所：いわきワシントンホテル椿山荘

男 子 34人

氏 名	行政区	氏 名	行政区	氏 名	行政区	氏 名	行政区
青 木 虹 弥	長塚一	植 田 樹	長塚一	小谷野 瑛 人	下 条	高屋敷 司	長塚一
青 田 京 真	下 条	宇名根 悠 樹	山 田	官 野 和 樹	下 条	武 田 響	新 山
青 田 讓	郡 山	鵜 沼 修 也	下 条	黒 澤 宥 弥	長塚一	新 田 海 斗	浜 野
石 井 輝	三 字	遠 藤 仁 成	下 条	坂 本 翔	下 条	万 崎 龍 汰	長塚一
石 井 杏 弥	長塚一	大 空 加伊斗	浜 野	三 瓶 公 平	長塚二	柳 瀬 皇 紀	三 字
石 川 拓 人	下 条	小 川 希	細 谷	志 賀 俊 哉	三 字	吉 田 寛	新 山
石 橋 淳 一	三 字	大 野 智 貴	鴻 草	白 土 典	新 山	渡 部 啓	新 山
井 上 翔 平	郡 山	岡 田 和 真	浜 野	杉 田 喬 哉	寺 松		
井 上 勇	下 条	奥 谷 真 生	長塚一	鈴 木 貴 紀	鴻 草		

女 子 36人

氏 名	行政区	氏 名	行政区	氏 名	行政区	氏 名	行政区
石 川 陽 佳	寺 松	加 藤 奈 緒	山 田	志 賀 菜 央	浜 野	中 井 彩	長塚一
石 橋 理 穂	三 字	菊 池 歩 実	長塚一	島 田 憂 佳	寺 松	中 井 風 佳	羽 鳥
井 上 愛 梨	下 条	北 崎 多 恵	羽 鳥	鈴 木 志 野	山 田	舶 来 知 里	山 田
大井川 広 恵	新 山	小 林 優 実	下 条	高 倉 美智子	新 山	林 佳菜子	下 条
大 高 有 貴	郡 山	古 村 未 来	長塚二	高 野 華 純	長塚一	廣 田 晴 奈	新 山
大 貫 有 南	長塚一	紺 野 朱 里	鴻 草	高 萩 琴 巳	下 条	古 山 未 来	新 山
大谷内 真 奈	下 条	佐 藤 宥	三 字	高 萩 琴 巳	下 条	松 井 遥	下 条
小野田 安 紗	新 山	佐 藤 幸 奈	郡 山	竹 内 美 咲	寺 松	吉 田 聖 羅	三 字
勝 山 麻 子	下 条	三 瓶 実 莉	下 条	竹 澤 妙 子	下 条	渡 辺 麻 美	三 字
				竹 原 実 来	新 山		

◆◆ 新成人の皆さまおめでとうございます ◆◆

20歳になったら国民年金

日本に住む20歳から60歳未満のすべての人は、国民年金に加入し、保険料を納めることが義務づけられています。若いときに公的年金に加入し保険料を納め続けることで、老後の生活を保障するだけでなく、万が一、病気や事故で障害が残ったときや一家の働き手が亡くなったときなど、あなたやあなたの家族を守ってくれます。

ただし加入の届出や保険料の納め忘れがあると年金が受けられないこともありますので、加入手続きを行いましょう。加入に関する各種手続きは、役場または最寄りの年金事務所へお問い合わせください。

※20歳前に就職して厚生年金に加入中の方は、手続きは不要です。

国民年金の給付は、3種類の基礎年金があります。

- 老齢基礎年金
- 障害基礎年金
- 遺族基礎年金

※上記年金を受給するためには、それぞれ受給要件があります。

被保険者の種類	第1号被保険者	第2号被保険者	第3号被保険者
対象者	20歳以上60歳未満の 自営業、農林漁業、学生、 無職の方など	会社員、公務員など	第2号被保険者に扶養されている20歳以上60歳未満の配偶者
保険料	国民年金保険料 定額：16,340円 (平成30年度) 付加保険料：400円	報酬に応じて、事業主と被保険者が折半で負担します。	被保険者本人は保険料負担が不要です。(配偶者の加入している厚生年金の保険者が負担します)

学生納付特例制度について

学生の方は一般的に所得が少ないため、ご本人の所得が一定以下の場合、国民年金保険料の納付が猶予される制度です。

対象となる学生は、学校教育法に規定する大学（大学院）、短期大学、高等学校、高等専門学校、専修学校及び各種学校（修業年限1年以上である課程）、一部の海外大学の日本分校に在学する方です。

年金手帳は大切に保管しましょう！

公的年金制度では、全ての年金制度に共通する基礎年金番号が使用されます。国民年金や厚生年金に加入すると基礎年金番号が記載された年金手帳が交付され、加入記録や保険料状況等がこの番号で管理され、年金に関する手続きの際必要となりますので、大切に保管してください。

学生納付特例が承認された期間の年金は、将来の受給資格期間には導入されますが将来もらえる年金額には反映されません。ただし、10年以内であればさかのぼって納める（追納）ことができます。将来受け取る年金額を増額するためにも、社会人になってから保険料を追納することをおすすめします。

コンビニエンスストア等における戸籍証明書などの 証明書自動交付サービスの一時停止について

コンビニエンスストア等におけるマイナンバーカードを利用した戸籍証明書などの証明書自動交付サービスについて、戸籍システムの更新作業のため、次の期間中は、証明書の発行及び本籍地交付の利用者登録申請ができませんのでご注意ください。

なお、停止期間中も住民票や印鑑証明書、税証明は従来通り発行可能です。

ご迷惑をお掛けしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

- **停止期間※** 平成31年1月22日(火) 17時30分から21時30分まで
- **出力が停止される帳票** 戸籍の全部事項証明書(戸籍謄本)、戸籍の個人事項証明書(戸籍抄本)、戸籍の附票の写し

コンビニエンスストア等における住民票などの 各種証明書の自動交付サービスの一時停止について

コンビニエンスストア等におけるマイナンバーカードを利用した住民票などの各種証明書の自動交付サービスについて、システムの更新作業のため、次の期間中は、証明書の発行ができませんのでご注意ください。

ご迷惑をお掛けしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

- **停止期間※** 平成31年1月31日(木) 6時30分から23時00分まで
- **出力が停止される帳票** 住民票の写し、印鑑証明書、戸籍の全部事項証明書(戸籍謄本)、戸籍の個人事項証明書(戸籍抄本)、戸籍の附票の写し、所得・課税証明書

※コンビニエンスストア等における証明書等の自動交付サービスの利用可能時間は6時30分から23時00分までです。ただし店舗の営業時間内に限ります。

【問い合わせ先】 戸籍税務課 戸籍係 ☎ 0246-84-5204

平成31・32年度指名競争入札参加資格審査受付

町の指名競争入札に参加するためには、「指名競争入札参加審査資格申請書」を提出する必要があります。提出された申請書は、一定の基準に基づき審査を行い、必要な資格を満たしている方を有資格者として登録します。

今回は、平成31・32年度の2年分の資格審査申請書を受け付けます。

▼受付期間

平成31年2月1日(金)から2月28日(木)まで
持参の場合：午前8時30分～午後5時15分
※土・日曜日、祝日を除く

▼提出書類

- ・福島県様式に準じる(各1部提出)
詳細は双葉町公式ホームページをご確認ください。
- ※申請書はA4ファイルとじとします。
- ※ファイルの色については、(建設工事：グリーン、測量等：イエロー、物品・役務：ピンク)で提出してください。

▼提出場所および提出方法

持参または郵送(締切日必着)のいずれかの方法により双葉町いわき事務所総務課へ提出してください。受付票が必要な方は、受付印を押印する書類と返信用封筒、もしくは返信用はがきをご用意ください。
(任意様式可。宛先を記入し、必ず郵送料金分の切手を貼付けること)

▼当該資格の有効期間

平成31年6月1日から平成33年5月31日まで

【問い合わせ先】 総務課 管財係 ☎ 0246-84-5201

相馬税務署からのお知らせ

1. 平成31年(2019年)1月から、e-Tax(電子申告)の利用手続きがより便利になります。

○マイナンバーカード方式

用意するものは、次の2つ！

- ① マイナンバーカード ② ICカードリーダライタ

※既にe-TaxのIDを取得している方もe-TaxのID・パスワードが不要になります。

○ID・パスワード方式

マイナンバーカードやICカードリーダライタをお持ちでない方もe-Tax(電子申告)で申告できます。

用意するものは、次の2つ！(ID・パスワード方式に対応したもの)

- ① ID(利用者識別番号) ② パスワード(暗証番号)

※1. IDとパスワードは税務署で職員と対面による本人確認を行った後に発行しますので、発行を希望される方は、運転免許証などの本人確認書類をお持ちの上、税務署にお越しください。

※2. 国税庁ホームページの「確定申告書等作成コーナー」でのみ利用できます。

なお、従来どおり作成コーナーで申告書を作成して紙に印刷し、税務署へ郵送等により提出することもできます。 [国税庁ホームページ http://www.nta.go.jp](http://www.nta.go.jp)

2. 平成30年分確定申告書にはマイナンバーの記載が必要です。

税務署に所得税等の確定申告書を提出する都度、マイナンバーの記載と本人確認書類(番号と身元の確認できるもの)の提示または写しを添付していただく必要があります。

《本人確認書類の例》

- (1) マイナンバーカード(番号確認と身元確認)

- (2) 通知カード(番号確認)+運転免許証、健康保険の被保険者証など(身元確認)

※1. 申告書作成会場においてになる際は、本人確認書類の持参をお願いいたします。

※2. 確定申告書を郵送する場合は、本人確認書類の写しの添付をお願いいたします。

3. 平成30年分の所得税等の確定申告書作成会場について

平成30年分の所得税(及び復興特別所得税)、消費税及び贈与税の確定申告期における申告書作成会場は、次のとおり開設する予定です。

- 開設場所 『相馬市振興ビル』相馬市中村字塚ノ町65-16

- 開設期間 平成31年2月18日(月)～3月15日(金)《土、日を除く》

- 開設時間 午前9:00～午後4:00

※申告書作成会場の開設期間前および開設期間中、相馬税務署内では用紙の交付は行いますが、申告書作成相談は行いませんので、開設期間内に申告書作成会場にお越しください。

4. 「確定申告のお知らせ」の持参について

前年、各市町村や税務署の申告相談会場で確定申告書を提出された方につきましては、確定申告書等の用紙(確定申告書、収支内訳書など)が送付されません。

確定申告書等の用紙に代えて、予定納税額等の申告に必要な情報が記載された「確定申告のお知らせ」が送付されますので、各市町村や税務署の申告相談会場に来場する際は、申告に必要な書類とともに「確定申告のお知らせ」もご持参されますようお願いいたします。

◆ ◆ 長塚一行政区からのお知らせ ◆ ◆

平成30年度総会・交流会を下記のとおり開催しますので、ご参加ください。

日 時：3月17日(日)
 受 付 …… 午後2時30分～
 総 会 …… 午後3時～
 交流会 …… 午後6時～

場 所：小名浜オーシャンホテル
 いわき市泉町下川大畑17

会 費：10,000円

申込締切：3月10日(日)までに参加の有無をお知らせください。

備 考：◆町からの「現況説明会」も予定しています。

◆参加される役員の方は午後2時までにご集合ください。

【連絡先】 木幡 智清 ☎ 090-7666-3116
 岩元 善一 ☎ 090-7338-9644

※行政区の総会・交流会の参加費は、生活サポート補助金の対象となります。

双葉中学校(昭和41年度)卒業生の皆さまへ(昭和26年4月2日～昭和27年4月1日生まれ)

同級会のお知らせ

平成23年2月に還暦祝会を開催してから7年が経ちました。
 同級会開催の要望があり、下記のとおり開催することになりました。
 皆さんの参加をお願いいたします。

日 時 平成31年
 2月24日(日)～25日(月)
 午後6時

場 所 いわき市湯本温泉 新つた
 いわき市常磐湯本町吹谷58
 ☎ 0246-43-1111

出欠会費等 はがきで通知いたします。

【連絡先】
 代表幹事 吉田 晴男
 ☎ 090-2027-3375
 幹事 高野 利彦
 ☎ 090-8926-8653

▶▶▶ 詐欺サイトにご注意ください! ◀◀◀

ふるさと納税の画像や返礼品名を不正にコピーした悪質なサイトが乱立しております。
 怪しいと感じた場合は、お申し込みをされる前にご確認ください等、十分ご注意ください。

双葉町でのふるさと納税寄附申し込みは、町公式ホームページ上のみ
 ご案内しております。

詐欺サイトの手口は巧妙になりつつありますので、注意を怠ると大きな被害を受ける可能性がありますのでくれぐれもご注意ください。

いわき・まごころ双葉会 薄磯団地有志の会と交流(12月例会)

12月8日、薄磯団地有志の会の方々6人を来賓として迎え、いわき・まごころ双葉会の12月例会が開催されました。

いわき・まごころ双葉会の木幡智清会長のあいさつに続き、佐々木清一町議会議長、大河内薄磯団地有志の会代表が来賓あいさつを述べられ、薄磯団地有志の会へ記念の双葉ダルマが贈られました。

昨年に引き続き、いわき市のコーラスグループ「コール・フロイデ」の6回目となるミニコンサートも行われ、参加者といわき市民の歌や双葉町民の歌を歌い、交流を図りながらのコンサートは和やかに進行了しました。ハンドベルの演奏では、今年はなかなか練習ができなかったと説明がありましたが、本番では息の合った演奏を披露し、たくさんの拍手が送られました。今年、いわき市南台応急仮設住宅で行われたダルマ市で購入したという緑の双葉ダルマに目入れをして、ミニコンサートは終了しました。

続いて、伊澤史朗町長から町の現状についての講演があり、参加者の皆さんは理解を深めました。ビンゴ大会やユーモアセラピストの笑いの講話などを楽しんだ皆さんは、参加者同士の会話も弾み、毎年恒例の例会を大変楽しみにしている様子うかがえました。



双葉の恋活・婚活パーティ

ふたこんを開催します

～すてきな恋活・婚活はじめませんか～

日 時：平成31年2月16日(土)

日 程：14:00～15:30 …… トークタイム、インディアカ(双葉町立学校体育館にて)

15:30～16:00 …… 移動(各自で移動)

16:00～18:00 …… 軽食、トークタイム(カフェMARUJUにて)

会 場：双葉町立学校体育館 〒974-8232 福島県いわき市錦町御宝殿56

カフェ MARUJU 〒979-0142 福島県いわき市勿来町酒井青柳14-4

参加費：男女ともに1,000円

定 員：男性10人 女性10人 合計20人

対 象：概ね40歳くらいまでの独身男女 ※男性は双葉町に在住在勤の方に限る

申込受付期間：平成31年1月4日～1月31日



申込方法

電話・FAX・メールいずれかでお申し込みください。

お申し込みの際に、①氏名 ②住所 ③連絡先(電話番号、メールアドレス)

④生年月日 ⑤性別をお知らせください。

双葉町教育委員会教育総務課

TEL：0246-84-5210

FAX：0246-84-5248

メール：kyouiku@town.futaba.fukushima.jp

主 催：双葉町未来をつなぐ赤い糸事業実行委員会

共 催：双葉町後継者結婚対策協議会

後 援：双葉町教育委員会

室内履き(体育館シューズ等)をご持参のうえ、動きやすい服装でご参加ください!

夢ふたば! 明日に踏み出せ!! in 勿来

双葉町ダルマ市開催のお知らせ



新春恒例!

今年も、双葉町民有志の「夢ふたば人」主催により、
双葉町ダルマ市が開催されます。

■日 時：平成31年1月12日(土)・13日(日) 9:00～

■場 所：復興公営住宅 勿来酒井団地(いわき市) イベント広場

プログラム

12日(土) 9:00～16:00

時 間	内 容
8:30	相馬妙見宮初發神社 高倉洋尚宮司による祈祷
	奉納神楽(三字の神楽)
9:00	開会式
9:30	子供樽 ^{みこし} 神輿
11:00	LOVE FOR NIPPON STAGE
13:00	巨大ダルマ引き
14:00	カラオケショー

13日(日) 9:00～15:30

時 間	内 容
9:30	双葉町民俗芸能発表会
10:25	第29回双葉町芸能発表会
12:00	消防団ダルマ ^{みこし} 神輿
12:30	ひょっこりこ踊り
13:00	T&Kミュージックスクール歌謡ショー・カラオケショー
15:00	閉会式

【問い合わせ先】産業課 商工労政係 ☎ 0246-84-5214

◆ 双葉町民俗芸能発表会 ◆

日 時	芸 能 名	団 体 名
12日(土) 8:30	三字の神楽(奉納神楽)	三字芸能保存会
13日(日) 9:30	渋川の神楽	渋川芸能保存会
13日(日) 9:50	前沢女宝財踊り	前沢女宝財踊り保存会
13日(日) 10:00	相馬流れ山踊り	双葉町相馬流れ山踊り保存会

◆ 第29回 双葉町芸能発表会 ◆

開催日：1月13日(日)

時 間	演 目	団 体 名
10:25	開会	
10:30	いなすま、夏	標葉せんだん太鼓保存会
10:45	双葉町民の歌、唱歌メドレー 「ふるさとの四季」	コーラスふたば
11:00	二輪草、義経残照	若幸流やよい会
11:15	一月一日、さくらさくら、 野口雨情詩集3曲メドレー、 八木節	JAスマイル大正琴
11:35	花笠音頭、三味線合奏(津軽 甚句・相馬盆歌)、常磐炭坑節	双葉町民謡同好会
11:50	ふたば音頭	
12:00	閉会	

※時間は目安です

【問い合わせ先】 双葉町教育委員会 教育総務課 生涯学習係 ☎ 0246-84-5210

今年は勿来酒井団地で開催します！

会場の駐車スペースに限りがあります。相乗り・バスのご利用にご協力ください。

周辺の駐車場のご案内

- くぼた「街の駐車場」
 - ・ JA福島さくら 勿来支店
 - ・ 東邦銀行 勿来支店
 - ・ ひまわり信用金庫 勿来支店
- なこそ病院

無料シャトルバスのご案内

なこそ病院 ↔ 勿来酒井団地

9:30～1時間おき

1月12日(土) 13日(日) 両日とも
無料シャトルバスを運行します

◆ 健康づくりサポート教室 ～糖尿病対策・2回目～ ◆

日 時：平成31年1月25日(金) 10:00～14:30

場 所：大槻公民館(郡山市大槻町字前田56-1)

持ち物：エプロン、三角巾、水分補給のための飲み物

食前・食後の
血糖値の測定
ができます

プログラム

- 10:00～11:10 受付・オリエンテーション・保健師によるプチ講話
- 11:10～13:00 調理実習・試食
- 13:00～13:30 管理栄養士による講話
「おいしく糖尿病と付き合うには・食事の基本」
- 13:30～14:30 個別相談

定 員：15名程度

申込締切り：平成31年1月15日(火)

※血糖値が高めで気になる方、またはそのご家族やご友人の参加をお待ちしています。

【問い合わせ・申し込み先】 双葉町郡山支所 保健チーム ☎024-973-8090



冬の水分補給



冬は喉の乾きを感じにくく水分摂取量も少なくなりがちです。人間の体の約60%は水分です。毎日食べ物などから2～2.5リットルの水分を摂取し、尿や便、汗などで1.2～2リットルの水分を体から排出していますので、水分補給の重要性は夏場と変わっていません。

病気の予防に効果的

① 風邪やインフルエンザの予防

風邪対策のうがい、手洗いに加えて「水分補給」も大事な予防策のひとつです。風邪やインフルエンザのウイルスは、湿度50%以上になると活動が低下します。水分は、喉や鼻の粘膜をうるおしてウイルスの侵入を防ぎ、侵入したウイルスを痰や鼻水が体外に排出するのを助けます。

② 脳卒中や心筋梗塞予防に水分補給

冬は、寒さから血圧が上昇しやすく、脳卒中や心筋梗塞を起こしやすくなります。これは血圧が上昇すること一因ですが、水分も関わっています。水分が少ないと、血液の粘度が上がり「ドロドロ」の状態となり血管が詰まりやすく、脳卒中や心筋梗塞を発症する可能性が高くなります。

水分補給の方法

- 水分摂取に最適なものは、常温に近い温度の水です。
- 1日のめやすの摂取量は1～1.5L程度(水やお茶などの水分だけで)
- ゆっくり少量(150～200ml)ずつ、7～8回にわけてこまめに飲む。
- 体から水分が失われやすいタイミングでの補給を忘れずに。
①起床時 ②運動の前後 ③入浴の前後 ④就寝前

— 全国健康保険協会 季節の健康情報より —

* 病気療養中で水分摂取制限がある方は主治医にご確認ください。



新年会に水分補給

お酒を飲むと喉が渇くことは経験されていると思いますが、アルコールには利尿作用があり、さらにアルコールを分解する過程で水分が必要になるため、飲酒量が多いと脱水状態となります。アルコールを飲んだら意識的に水分を補給して、脱水状態を防ぎましょう。

新年をお酒で祝うときには、水分補給もお忘れなく。

笑いと健康

1 笑いの効果

1日に笑う回数は、子どもで300～400回、大人では10～20回ほど。1日に何度も笑わない方もいるかもしれませんが、笑いは生活の中のふとした不安や痛みを軽減したり、ほかにも気がつかないうちにさまざまな効果を発揮しています。不安や痛みが取り除かれ様々な効果によって“生活の質（QOL）”が向上することが分かっています。

また、自分が笑顔になることで周囲にいる方も笑顔になり健康のための一助となります。“たのしくて健康になる”今日から誰にでも簡単にできる健康法です。

- ・不安や痛みの軽減
- ・免疫力の向上とがん予防
- ・心肺機能の向上
- ・代謝の促進（血流改善）
- ・リラックス効果
- ・ストレス耐性の向上

2 “動作が感情をつくる”

笑いとヨガの腹式呼吸を組み合わせた「笑いヨガ」の基本となる考え方に“動作が感情をつくる”という考えがあります。たとえ、作り笑いだとしても表情筋が緩むことで副交感神経に作用し、心も身体もリラックスしストレスの緩和を促します。普段笑うことの少ない方も、意識して笑顔をつくることで表情筋もその動きに慣れて自然と笑えるようになります。

3 笑顔をつくる・声を出して笑う

作り笑いでも笑いの効果は得られますが、『ワハハ』と声を出すことで、笑いの効果はさらに増すことが分かっています。寿命への影響に関する研究では、よく笑う人、作り笑いをする人、笑わない人の寿命の平均が79.9歳、74.9歳、72.9歳でよく笑うか笑わないかで6年の差が生じる結果となっています。

4 笑いましょう！（^v^）

笑いの効果を理解し活かすことで心と身体に対するあらゆるストレスを緩和することができます。日常のイライラや悩みも自ら笑い飛ばす、笑い話にするという感覚を持つことも日々健やかに生活するための一つの方法としてぜひ身につけていただきたいと思います。日常の「笑い」を増やすために、地域の行事やイベントに参加する、趣味を楽しむ、コメディ映画や落語・漫才を楽しむ、笑いヨガを活用するなど様々あると思います。病気の治療として笑いを取り入れる「ホスピタル・クラウン」と呼ばれる医師もいます。興味のある方は、ぜひ調べてみてください。

参考：保健指導リソースガイド <http://tokuteikenshin-hokensidou.jp>
こころの健康気づきのヒント集 厚生労働省 独立行政法人労働者健康福祉機構

《平成30年度福島県避難者検診（がん検診）のお知らせについて》

総合健診、乳がん検診等でがん検診を受診できなかった方を対象に、福島市、郡山市、いわき市の医療機関においてがん検診を実施します。

胃がん検診はご希望により内視鏡検査も受診できます。詳細は同封のチラシをご覧ください。

双葉町社会福祉協議会

～ 1月健康運動教室、社協サロン開催のお知らせ ～

こころとからだの健康のため、運動不足を解消しましょう。お気軽にご参加ください。

会 場	問い合わせ・申込先	開催月日	時 間
健康運動教室 （内容：健康講話、相談、運動機能の維持・向上等）			
南東北総合卸センター2階第6会議室 （郡山市喜久田町卸1丁目1-1）	☎ 024-973-5291（開発）	毎週 水曜日	13:30～15:00
北幹線第二応急仮設住宅集会所 （福島市飯坂町平野字内小原田8-1）		毎週 木曜日	

社協サロン （内容：健康体操、講話、相談、生きがいづくり、交流等） ※参加を希望される方は昼食準備のため、事前申込みをお願いします。			
白河市中心老人福祉センター （白河市北中川原313）	☎ 024-973-5291（開発）	1月8日（火）	10:00～14:00
郡山市喜久田公民館 （郡山市喜久田町堀之内字下河原1）		1月21日（月）	10:30～14:30
いわき市小名浜公民館2階会議室 （いわき市小名浜愛宕上7-2）	☎ 0246-84-6725（横田）	1月31日（木）	10:30～14:30

環境省 福島地方環境事務所からのお知らせ ～中間貯蔵施設について～

◇輸送について（12月12日現在）双葉町内中間貯蔵施設の受入・分別施設等への輸送の状況は下記のとおりです。

搬出市町村		搬入量 m^3 （袋）※	搬出市町村		搬入量 m^3 （袋）※
浜通り	双葉町	41,019	中通り	伊達市	21,852
	南相馬市	52,886		本宮市	9,367
	浪江町	37,168		桑折町	1,914
	葛尾村	48,696		国見町	6,948
	飯舘村	36,483		川俣町	35,354
	福島市	10,436		大玉村	7,073
中通り	二本松市	22,027	計		331,223

※フレキシブルコンテナ等1袋の体積を 1m^3 と換算しています。

➤年末年始（12月28日～1月6日）は輸送を休止する予定です。

◇環境安全委員会について

11月21日に福島県、双葉町及び大熊町等の委員からなる中間貯蔵施設環境安全委員会（第12回）が開催され、工事や輸送の状況等について報告しました。

引き続き安全確保に努めて中間貯蔵施設事業に取り組んでまいります。

◇保管場及び陳場下交差点の放射線監視

➤空間線量率の測定により、除染土壌等の搬入による周辺への影響は見られないことが確認されています。今後もしっかりと安全対策及び放射線の監視を行ってまいります。

➤中間貯蔵施設及び周辺モニタリングの結果については、以下のJESCO（中間貯蔵・環境安全事業株式会社）のHPで公表しております。（URL）<http://www.jesconet.co.jp/interim/operation/monitoring.html>



【問い合わせ先】福島地方環境事務所 中間貯蔵部 調査設計課 ☎ 024-563-1293

消防署からのお知らせ



本年もより一層の**火の用心**を！
皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

年始から「火の用心！」を心がけましょう！

この季節は空気が乾燥し、火災が発生しやすい季節です。県内でも住宅火災により多数の死者が発生しています。

大切な命、財産を守るため火の取扱いには十分注意してください。
一人ひとりの防火意識が地域の安全に繋がります。



暖房器具に気をつけて！

暖房器具による火災に気をつけましょう！
使用する際は下記のポイントに注意が必要です。

- ①暖房器具の**近くに燃えやすい物を置かない！**
- ②必ず**人がいる時のみ**使用する！
- ③暖房器具の**消し忘れ**に注意！



住宅用火災警報器を設置しましょう！

福島県の住宅用火災警報器の設置率は**全国ワースト5位**です。大切な命を火災から守るために住宅用火災警報器を設置しましょう。設置済の世帯は動作確認をしましょう。住宅用火災警報器について不明な点は最寄りの消防署までお問合せ願います。



平成30年度 全国統一防火標語決定 **【忘れてない？ サイフにスマホに 火の確認】**

< 消防署連絡先 > ◆浪江消防署 ☎0240-34-4111 ◆富岡消防署 ☎0240-22-2119

県立テクノアカデミー浜 追加募集

『福島県立テクノアカデミー浜』（南相馬市原町区設置）では、平成31年4月入学生を募集します。

1、追加募集科（募集人員：11月27日現在）

- (1) 短期大学校 ①計測制御工学科（10名）
- (2) 能力開発校 ①機械技術科（5名）

②建築科（9名）

※2次入学試験（12月14日実施）の結果により、募集人員が変更になる場合があります。

2、募集日程（平成31年）

- (1) 3次入学試験
 - ①出願期間 1月 7日（月）～1月11日（金）
 - ②試験日 1月18日（金）
 - ③合格発表 1月23日（水）

3、試験内容

- (1) 筆記試験：数学Ⅰ（短期大学校）、
数学Ⅰまでの基礎（能力開発校）
- (2) 面接試験

4、対象者

高等学校卒業者及び卒業見込みの者

※離職されている方や、転職を考えて再就職を目指したい方。また、職場に在籍しながら通学が認められている方が対象で、専門技術を身につける事を目的とします。

5、その他

- (1) 平成31年度は授業料等が減免措置となり、入学検定料、入学料、授業料がすべて無料となります。

※対象者は、東日本大震災時に学費負担者が被災地（福島・宮城・岩手県全域）に居住されていた方

- (2) 出願の手続き方法など詳しい説明及び学校見学などを希望する方は、お問い合わせください。

【問い合わせ先】 福島県立テクノアカデミー浜 （ホームページ）<http://www.tc-hama.ac.jp/>
〒975-0036 南相馬市原町区萱浜字巣掛場45-112
☎0244-26-1555 学生募集担当 藤田・二瓶・橋本



双葉の風だより

全国に避難されている皆さんから寄せられた
お便りの一部をご紹介します

標葉せんだん太鼓保存会が 第15回 日本太鼓シニアコンクールで 特別賞を受賞

標葉せんだん太鼓保存会（横山久勝会長）は、11月25日（日）に石川県白山市で行われた第15回日本太鼓シニアコンクールに出場し、特別賞を受賞しました。一昨年の初出場時には準名人位を受賞し、2度目の出場、2度目の受賞です。全国から42団体が出場するなか、特別賞9賞の最上位となる浅野太鼓賞を受賞しました。

出場資格は60歳以上ですが、今回シニアメンバーも7名になり、前回よりも迫力ある演奏ができました。

まだまだ避難生活が続き、全国各地に暮らす双葉町民に、いっぱい元気届けたい、そんな気持ちから全身全霊をかけて演奏しました。

これを励みに、伝統太鼓としての双葉の音を残し、そして歳はとっても味のある太鼓を打っていきます。

今泉 春雄（長塚二）



12月10日

伊澤史朗町長に受賞報告を行いました

11月18日、川俣町山木屋の高台にある櫛の大木に山木屋地区自治会、双葉町の有志（細谷地区住民含む）で「黄色いハンカチ」を掲げました。

40cm×40cmの黄色いハンカチ40枚を双葉町有志からプレゼントし、前日山木屋支援員（通称山木屋学校）の方々が、ロープに縛る作業をしました。

当日は素晴らしい秋晴れで、みんなでワイワイガヤガヤと賑やかに掲げました。参加者は遅れて参加した人たちも含め約40人程でした。

風にはためく黄色いハンカチを眺め、山木屋の方々は「いつでも戻っておいで…」のメッセージとし、双葉町の有志は「望郷の思い」を黄色いハンカチに託しました。

終了後、山木屋支援員が心を入れて調理したカレーライスを食べながら深まる山々を眺め、交流をさらに深めました。



誰も住んでなくても季節は移り、道路沿いの咲き誇る山茶花や庭先の鮮やかな紅葉を目にした時、かつての細谷が頭をよぎり遊びまわった子どもの声が聞こえてくるような思いがしました。

師走を目前にした故郷に、望郷の思いが一段と募りました。

大橋 庸一（細谷）

晩秋の細谷



11月26日 一時立ち入り時撮影

○千両に 勝る万両 福寿草
 ○終り田に 白鷺の細足 新春を待つ
 ○お歳暮の 声にぎわしや 街の声
 ○北風を 受けて色増す 木守柿
 ○山茶花と 早咲き椿 競い咲き

武内 恒雄（長塚二）

▶初参加の方には初めて
 のウィンナー作
 りとなりました



ワイワイ 11月17日に、YoY 交流会番外編を実施しました

今回は、双葉町民3人と、関係者2人が参加しての交流会でした。

以前の交流会 in 前橋の時と同じ「とんとん広場でのウィンナー作り」を体験しました。1時間程度で50cm程の長さのウィンナー5本を作り、試食をして残りはお土産にしました。ウィンナーを作るにはひき肉の押し出し方とラムの腸の引き出し方を合わせるコツが必要で苦労しました。途中からウィンナーとフランクフルトの違いについて疑問に思い、とんとん広場の方から説明を受けました。人気メニューの1日限定10食のポークステーキは、予約をしていたため皆で楽しむことができ、大きくて厚さの割には柔らかく食べられました。

食事後には、参加者の散歩コースである大室公園の中にある民家園・はにわ館・竪穴式住居などを見ました。東西1km、南北に500mの大室公園には6基の古墳があり、近くにも数基の古墳があります。群馬には現存しているだけで13,000基以上の古墳があり、過去に古墳があった場所にも住宅地開発の波が来て、ほぼ同数の古墳が埋め戻されたようです。石室内には、複製品の埴輪やうつわなどが並べられ、明治11年に石室が開口された当時を偲ぶことができました。

初参加の方からはウィンナーがどのように作られているかを体験できたり、石室に埋葬された豪族の気分にも浸れたり、群馬が遠いところだという感覚から身近に感じられることができたとの感想もいただきました。参加者の皆さまありがとうございました。タブレットなどを見てこれから参加したいという方は、どしどし参加していただきたいと思います。

千吉良 高志（三字）

【随想】新年に願いを込めて

平成30年も歳末となり「光陰矢の如し」を実感しております。

さて、日々インターネット接続で避難生活に「一縷の光」を見出すことが出来、生きる喜びをいただき感謝しております。

津波で全ての家財を失い避難生活となりましたが、以前に「NECデスクトップパソコン」を使用しておりましたので、まずNECの中古ノートパソコンを購入したのですが、画面にピンクの斑点が現れましたので「システムの初期化」を行うことでディスプレイの表示もほぼ正常化したのですが、その後は他のメーカーのノートパソコンを使用しておりました。最近再び「NECノートパソコン」を使い始めたところ、そのスピーディーな動作に改めて感動し、これと全く同じ型式の中古パソコンをインターネットで購入し、現在はこの2台を主に使用しております。最初に購入したパソコンが最近故障となり、分解し調べた結果、内臓の「ミニSSD」の不良と判断、部品をネットで検索、ようやく見つけ直ぐに購入して部品を交換・電源ONで無事終了を確認できましたが、OSのバージョンアップなどになり時間の時間を要しました。特に2台目は「Win7」でしたのでOSを「Win10」へバージョンアップするのに時間はかかりましたが、2台とも正常に動作をしておりました。

故障したパソコンは、当初はメーカーへの修理依頼を考慮し見積もりをいただきましたが、部品の供給をお願いしたところ「修理は受けますが、部品の供給はできない」とのことでした。部品「ミニSSD」は現在もPCパーツとして流通しておりますので、予備のパーツとして2個を確保することといたします。2台とも同じ型式で古いパソコンですが、処理能力が高いのでこれからも大切に使用してまいります。

新しい年が全ての避難者に幸せをもたらすことをお祈り申し上げます。

平成30年12月 古室 仁（浜野）

人のうごき11月分 敬称略

お誕生おめでとうございます

氏名	生年月日	保護者	行政区
まつき 松木 梨乃	11月21日	宏行・三千代	羽 鳥
さとう 佐藤 もも	11月25日	大地・直実	長塚一

お悔み申し上げます

氏名	年齢	死亡日	行政区
辻本キミコ	95	10月29日	長塚一
菅本ツネ子	79	11月 9日	長塚一
稲垣 康雄	88	11月18日	寺 松
志賀喜代子	80	11月24日	長塚一
光家 正恭	83	11月26日	下 条
野村 貢	55	11月27日	三 字

双葉町民の避難状況（平成30年11月30日現在）

- ・福島県内に避難されている方 4,074人
- ・福島県外に避難されている方 2,825人

※平成23年3月11日時点の住民基本台帳人口から死亡者を引き、出生者と転入者を加えた人口を示しています。

連絡のついた方で、了承の得られた方のみ出生、死亡の方の名前を掲載しています。

なお、掲載を希望しない場合は秘書広報課までご連絡ください。

秘書広報課 ☎ 0246-84-5202

記録として次の世代へ
ふるさと

絆通信

第69号



ずっと、ふるさと。双葉町。



双葉町を忘れない

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により、私たち双葉町民はふるさと双葉町を離れ、今もなお全国に分かれて避難生活を送っています。

先のない不安な生活の中で、町民の皆さんが毎日をどのような思いで過ごし、ふるさと双葉町への思いを抱き続けているのかを、皆さんの声をお聴きしながら「ふるさと絆通信」として連載しています。

そして「ふるさと絆通信」を通して、皆さんの双葉町への思いと心の絆がより一層深まることを期待いたします。



「ふるさと絆通信」で

あなたの想いを伝えてみませんか。

ふるさと絆通信では、避難されている皆さんへ想いを伝えていただける方を募集しています。

避難生活での活動や日々の生活の中で感じていること、ふるさと双葉町への想いをこのコーナーでお話ください。双葉町民の方ならどんなでも結構ですので、ご連絡をお待ちしています。

株式会社鹿島印刷所（南相馬市）の記者が町民の皆さんの避難先を訪問し、インタビュー取材をさせていただきます。

掲載する文章は、その内容をもとに記者が作成しますので、インタビューをお受けいただいた方が文章を作成する必要はありません。

【問い合わせ先】 秘書広報課

☎ 0246-84-5202

かんの しげる
菅野 茂さん

(三字)



●避難先●
茨城県守谷市



故郷になった双葉町

旧原町市（現・南相馬市原町区）に生まれ教員になった後、新山に住んでいた妻と結婚し双葉町民となりました。前田に居を構えてからは、可能な限り、地区の環境美化活動や行事等への参加を心がけ、皆さんとの交流と親睦を持つことができました。同じ相双の者とはいえ、町外出身の私を長年の隣人同様に受け入れていただき故郷を築けたことに、この場を借りて御礼申し上げます。

教員としての花道を経て

定年までの2年間、校長として双葉北小学校に赴任し、在任中、学力向上と体験活動の重視を基本として学校運営を進めました。双葉地区小学校教育研究指定校となり、算数指導方法の研究と改善に取り組む一方、子どもたちの努力によって、全日本吹奏楽コンクール福島県大会で銀賞、福島県学校環境緑化コンクールで前橋営林局長賞第3位を受賞しました。教員としての最後の花道は故郷で充実した時間となりましたが、地域の皆さんのご協力とご支援の賜物です。

双葉北小での勤務を通して、より多くの皆さんと知り合えたという大きな財産をいただき、40年近い教員生活に別れを告げました。退職直後、双葉町社会教育委員に任命され、同委員会議長となり、生涯学習の推進に向けた議論を進め、生涯学習広報紙の創刊、生涯学習指導者人材データバンクの整備などの成果を挙げることができました。同委員10人はまさに「十人十色」でしたが、活動を通して

視野の広がりを感じることができました。また同委員退任後、9年半、町教育委員を務め、在任中は教育委員長も経験させていただき、自己を磨き、人として大きく成長できたことは感謝に絶えません。

住み慣れた故郷を離れて

役職等を退いてからは、退職公務員会双葉支部の活動、町菊香会や詩吟の会に入り、同好の者同士で菊の栽培、吟詠や剣舞に親しむ日々を送っていました。町を離れてから避難所がある地域の皆さんをはじめ、多くの皆さんからお寄せいただいた献身的な支援を今でも忘れることはありません。

現在、近くに弟が住む守谷市内で生活しています。双葉町が恋しい気持ちは変わりませんが、東京ふれあい双葉会に入会し、時折、町民同士で故郷を懐かしむ機会をいただいています。

一方、避難先での地域参加については、守谷市介護福祉課が行っている料理教室にお誘いをいただいて参加し、ほぼ同世代の男性皆さまと真剣に楽しく料理に挑戦しています。出来上がった料理を味わいながら雑談を通して親睦を深め、地域にも馴染んできています。また、自治会にも入会し、ご近所の皆様と仲間意識を育んでいます。

避難から間もなく8年、住民登録上の住所と「生活の拠点（避難先）」が異なる状況が続いていますが、長期化する避難生活の質を充実させるためにも、避難先で住民同様の地位「二重の地位」を保障していただきたいと思っています。



こはた おさむ
木幡 治さん

(羽鳥)



●避難先●
福島県いわき市

人より偉い「蚕様」
かいてさま

学校を出てから福島県養蚕農業協同組合連合会に入職しました。私が社会人になった昭和40年代後半、双葉町をはじめとする相双地方では養蚕が盛んに行われていたため、農家では、稲作と養蚕という経営スタイルが多くみられました。

現在40歳代より若い皆さんは、養蚕という言葉は知っていても、実際の様子を目にされた方はほとんどいないと思います。その名の通り「蚕を養う」ことですが、単なる虫の飼育・養殖ではなく、餌となる桑の栽培、消毒、孵化から飼養を経て上簇後、収繭・乾燥し出荷まで、一連の工程を意味します。

蚕は、長年、品種改良を重ねたため、野生種に比べて病気に罹りやすいなど非常にデリケートな生き物でした。そのため、日々の世話を欠かすことができず、上簇が始まる時期は夜通し作業となることもあり、養蚕家の方々は大変だったと思います。また、比較的大きな現金収入にも繋がったことから、「蚕様」とも呼ばれ、養蚕農家の生活を支える大切な存在でした。

時代が変わりゆく中で

外国産生糸や絹の輸入増加による価格低下や、ライフスタイルの変化による絹製品の需要減少により、養蚕を行う農家が減少する中、平成8年、勤務先が解散し職を失

いました。農業についての基本的な知識や経験があったため、双葉町農業協同組合(当時)に採用されました。

その後、2度にわたる合併や役職定年を経て、震災当時は嘱託職員として勤務し、購買や米・大豆検査員としての仕事にあたっていました。一方、農協勤務の傍ら自宅のある地区で集落営農を進めるために設立された下羽鳥営農組合の立ち上げにも関わ

り、同組合では庶務会計を務めていました。

地域農業の復興に向けて

原発事故による放射性物質汚染は、私のような農業者にとって非常に辛いものとなりました。汚染地であっても作付けをすれば農作物は育ちますが、収穫物には放射性物質が含まれてしまいます。一方、事故後の様々な取り組みによって、除染や放射性セシウム吸収抑制技術がある程度確立され、農業復活に希望を持てるようになりました。下羽鳥地区は特定復興再生拠点区域内にあり、営農組合としても、営農再開に向けた一歩を踏み出せるようになりました。

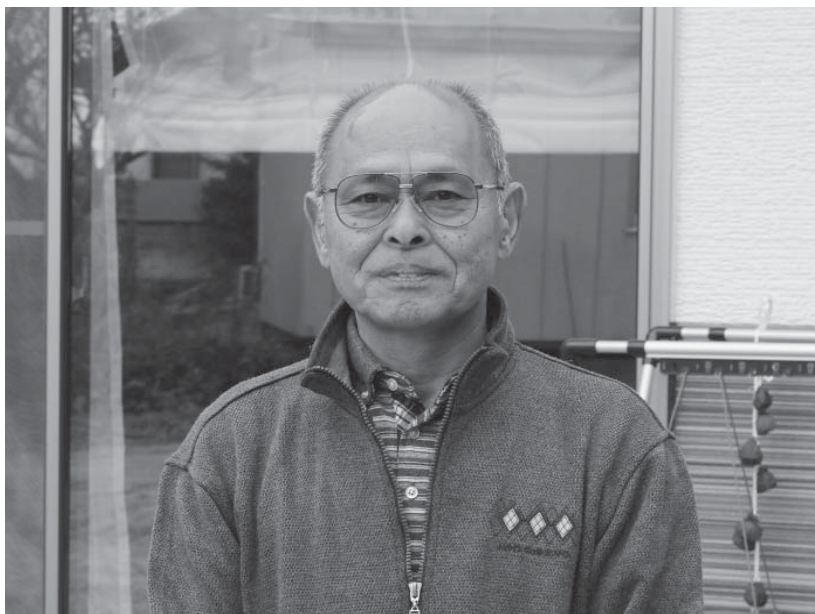
平成23年、ふたば農業協同組合(当時)の監事、同26年には代表理事専務に選任され、合併を経て、現在、福島さくら農業協同組合のふたば地区本部長理事を務めています。双葉町だけでなく双葉郡内の農業復興を目指して職務を続ける日々です。

やまもと ふみひこ
山本文彦さん

(石熊)



●避難先●
福島県南相馬市



「誰でも知っている」同士の日常

世間では「田舎」について話すとき、「何も無いところ」という件で始まることも多いと思いますが、都会について「何でもあるところ」というのでしょうか。もちろん、我が故郷・双葉町や石熊地区は、前者に当てはまり、私もそのように答えるでしょう。

あえて比較するならば、震災後「故郷より都会的な地域」で生活していますが、心底、快適だと感じたことはありません。強制的に長年住み慣れた場所から離され、新しいところでの生活再建を強いられること自体、私を含め多くの方にとって精神的に重い負担でしたが、それは一時的なものではなく、現在もなお、心のどこかにポカんと穴が空いたように残っています。

世間的には生活再建ができてるように見えても、避難先自治体に住民登録しているわけでもなく、周囲は知らない人ばかり。故郷のように「誰でも知っている同士」で地域の絆で繋がっている日常は、元の場所に戻らない限り、不可逆的でかけがえのない存在と痛感しています。

「故郷と似た姿」を求めて

避難指示により、県内の親類宅や避難所を経て長女が住む栃木県日光市に半年間ほど身を寄せました。「日光結構」などと言われるように、自然豊かで世界遺産もある

地域ではありませんが、双葉町まで直線で約200km離れており、一時立ち入りの利便性を考え郡山市に移りました。

原発事故の被害状況が明らかになる中、石熊地区は帰還困難区域の中でも放射線量が高く、より帰還が難しいと明らかになりました。そこで、長期的に生活できるところを探し始め、双葉町に近く、故郷と同じとはいかないまでも敷地に余裕がある多少「屋敷らしい」場所が見つかり、昨年から南相馬市内での生活を始めました。

故郷を繋いでいくこと

双葉町内では各地区ごとの青年会があり、石熊では石友会せきゆうかいと呼ばれ、様々な地域活動を行っており、「石熊じゃながら念仏踊り」もその一つでした。当地区のじゃんがらは、近隣（山田や大熊町長者原）やいわきと比べて踊りに勢いがあるのが特徴ですが、震災以降、活動できない状態が続いています。私も長年関わってきましたが、復活できる機会があればと願っています。

昨年より行政区長をさせていただいています。避難以降、毎年、総会・交流会を行い懇親を図っていますが、高齢化などにより、年々、参加者は減少傾向です。帰還が叶わぬ状態は続き、区長としての活動は限られますが、有形無形を問わず、故郷を繋ぐことの一助になればと思っています。

ぼくの夢・わたしの夢



棚倉町立社川小学校 6年 ^{おの}小野 ^{ゆうた}悠太くん(長塚一)

ぼくの将来の夢は、お医者さんになることです。理由は、直らない病気で苦しんでいる人達をテレビで見たことがきっかけで、病気を治すことが出来るお医者さんになりたいと思ったからです。

そのためには苦手な教科の理科を克服して、全ての教科を得意に出来るようにしていきたいです。また、人に優しく出来るように思いやる気持ちを大切にしたいと思います。

ぼくがお医者さんになったら、病気で苦しんでる人達を笑顔にして、少しでも楽にしてあげられるようなお医者さんを目指してがんばりたいと思います。

平成最後の新年を迎えました。
今月の表紙は、三字芸能保存会の獅子頭が無病息災を願って見物者の頭を囀んでいる場面です。三字芸能保存会は昨年活動を再開し、ニュースふたば特集版2018年12月3日号(動画)では練習風景から特集させていただきました。前田の大杉の前で奉納される神楽の映像を見て、改めて映像記録の大切さを実感しました。
広報紙の取材を行っている結果的に広報紙に掲載されない写真もあります。しかしながら別の場面での写真が役に立つことがあります。そういった意味で無駄になる写真はありません。
今現在昔の写真を懐かしい気持ちで見えています。今、広報紙に掲載している写真を懐かしい気持ちで眺める日々もやがて訪れるのだと思います。撮りたいように写真を撮ることが出来るように、自分なりに写真撮影技術の向上をはかることを新年の目標といたします。

編集後記

今月のベストスマイル



いわき・まごころ双葉会の12月例会に参加した江井俊雄さん(新山)、江井紀子さん(新山)ご夫婦の笑顔です。

連絡先

○いわき事務所
〒974-8212
福島県いわき市東田町二丁目19-4

○郡山支所
〒963-8024
福島県郡山市朝日一丁目20-2

○埼玉支所
〒347-0105
埼玉県加須市騎西36-1 加須市騎西総合支所2階

☎ 0246-84-5200
FAX 0246-84-5212
✉ futaba@town.futaba.fukushima.jp

☎ 024-973-8090
FAX 024-933-5120
✉ fukushima@town.futaba.fukushima.jp

☎ 0480-53-7780
FAX 0480-53-7266
✉ saitama@town.futaba.fukushima.jp

○双葉町公式ホームページ
<http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/>

携帯サイト

<http://www.town.fukushma-futaba.lg.jp/m/>

○双葉町公式ブログ「ブログふたばのわ」
<http://futabanowa.wordpress.com/>

○双葉町復興ポータルサイト

<http://www.futaba-fukkou.jp>

